

## 不安な時期への神の備え（マタイによる福音書 6:24-34）

2020年4月19日（日）

ジョーイ・ゾリーナ牧師

---

「コロナとキリストの十字架」シリーズを続けていますが、皆さんに質問があります。この状況の中、とても不安を感じていますか？あなたの周り、世界を見渡してみても、霊的に落ち込んでいますか？今日はまた、よく知られている箇所、マタイによる福音書6:24-34から見ていきます。今日の3つのポイントは、1. 私たちの不安の奥にある偶像 2. 私たちの安全を定義する価値 3. 究極的な安全を与えてくれる王 です。

---

### 1. 私たちの不安の奥にある偶像

#### 24～25節

「24 だれも、二人の主人に仕えることはできない。一方を憎んで他方を愛するか、一方に親しんで他方を軽んじるか、どちらかである。あなたがたは、神と富とに仕えることはできない。25 だから、言うておく。自分の命のことで何を食べようか何を飲もうかと、また自分の体のことで何を着ようかと思い悩むな。命は食べ物よりも大切であり、体は衣服よりも大切ではないか。」

頭に置いておいて欲しいのは、イエスさまはガリラヤ、デカポリス、エルサレム、ユダヤ、ヨルダン川の向こうからやってきた群衆たちに話しています。（マタイ4：25）その群衆は、イエスの弟子たちを含めた様々な人種の集まりでした。そして今日の聖書箇所24節から、イエスはこう言われます。「誰も、2人の主人に仕えることはできない。」はい、質問です。あなたの心は何に仕えていますか？「仕える」とは、「従う、屈服する、奴隷となる」ということです。私たちは皆、何かに仕えています。イエスは言われます。あなたの心は何に仕えていますか？それがあなたの主人です。出エジプト記20:3で、神さまが私たちにした最初の命令を覚えていますか？神さまは、神の人々にこう言いました。「あなたには、わたしをおいて他に神があってはならない。」そして24節の後半には、「神とお金に仕えることはできない」とあります。言い換えると、あなたは、唯一の真実の神さまを賛美し、

仕えるか、あなたが作り上げた、他の「小さな神さまたち」に仕えているのかどっちかです。イエスは、「一方を憎んで他方を愛するか、一方に親しんで他方を軽んじるか、どちらかである。「愛」という言葉に注目してください。それは、「愛情を持つ」ということです。愛は心の言語です。そしてイエスは、あなたは神を愛しながら、同時にお金も愛することはできないと言っています。

では、どうしてお金があなただの主人になっていると分かるでしょう？あなたが金に仕えているとどうして言えるでしょう？はい、あなたが金のことを四六時中考えていたら、そうですね。少し前の21節で、イエスは「あなたの富のあるところに、あなたの心もある」と言っています。もしお金があなただの主人なら、もしくはお金があなただの宝物なら、あなたの考え、想像、感情を占領するでしょう。銀行口座の残高が増えたり減ったりすることによってあなたの不安レベルが上がったり、下がったりするようなら、お金があなただの主人となっていると言えるでしょう。危機の時には、正当なニーズと懸念を持ちます。しかし、不安っていくらでしょう？それを聞きたいです。また、お金があなただの神になっていると分かる別の方法は、注意深く貯めていることです。与えるよりも、貯金する方が簡単なら、お金があなたに対して力を持っています。もしお金があなただの感情を支配しているなら、それはあなたの究極的な安全となっているのです。分かりますか？ここでのキーワードに気づいてください。「仕える」「愛する」「捧げる」これは心の奥底に居座っている問題です。「捧げる」とはそのものと1つになるということです。イエスは、「誰も、2人の主人を愛し、仕え、1つになることはできない」と言っています。それは、神さまが、あなたが愛し、仕える主人であるかどうか、ということです。もしくは、お金が、あなたが愛し、仕える主人になっているのです。あなたはどちらを愛していますか？24節にある「富」という言葉、それは、物質的に所有しているもの、裕福さ、豊かさを表します。それは、物質的な心地よさの偶像（神様よりも愛しているもの）のことを言っています。

24節を読んで、「お金を愛する人なんて、泥棒や詐欺師でしょう」と思うことは簡単です。しかし、あなた自身に問いかけてみてください。あなたの心が本当に仕えているものは何ですか？宗教的な答えはこうです。「私は神さまに仕えています。」しかし、ルカ16:14では宗教的なパリサイ人は「金に執着している」と書いてあります。パリサイ人とは、とても宗教的に、正しいように見せかけるのが上手

な人々でした。しかし本当は金に執着する者、金を愛する者、だったのです。言い換えると、お金の奴隷になりながらも、宗教的な人になることが可能なのです。だからイエスは6章2節で、「だから、あなたは施しをする時には、偽善者たちが他からほめられようと会堂や街角でするように、自分の前でラッパを吹き鳴らしてはならない。」と語っています。要するに、あなたがお金をあなたの評判を上げるために使っているなら、心の中で偶像が力を持っているということです。

つまり、イエスが言っているのは、お金は素晴らしい召使いだが、ひどい主人だ。ということです。もしあなたが、お金、快適さ、裕福さを偶像化してしまうなら、最終的にあなたは心を心配で突き刺すことになります。だから、イエスは25節で「自分の命のことで何を食べようか何を飲もうかと、また自分の体のことで何を着ようかと思ひ悩むな。」明らかに、イエスはここで病気に対する心配のことを言っているわけではありません。そうではなくて、この国を内側から疲労困憊させるような類の心配のことです。では、私たちがそこまで心配させる命のこと、とは何でしょう？イエスがこういう言い方をしました。「心配しなくて良い。。。あなたの体のこと、何を着ようかということ。」私たちは、何かを食べなければ、生きていけない、服を着て身体を守らなければ、病気にかかってしまう弱い者です。この基本的なものがないと確実に私たちは死にます。要は、人間の人生はもろく、弱く、さらけ出されているのです。だから、イエスは「命は食べ物よりも大事なんじゃないのか？食べ物や服よりも命に大切なものがあるんじゃないか？」と語っているのです。いいですか、イエスはこう言いたいのです。「あなたが、お金や所有物がもたらす快適さを偶像化してしまったら、あなたはそれらの奴隷になっているのです。もし、お金や裕福さや物質的快適さがあなたの主人となるなら、もしあなたの心がそれらによってあなたの価値を生み出されるように感じているなら、最終的にとてつもない失望へつながっていくでしょう。」お金は、神さまだけが与えることのできる幸せな未来を、与えることはできないのです。では次のポイントを見ていきましょう。

---

## 2. 私たちの安全を定義する価値

### 26-30 節

「26 空の鳥をよく見なさい。種も蒔かず、刈り入れもせず、倉に納めもしない。だが、あなたがたの天の父は鳥を養ってくださる。あなたがたは、鳥よりも価値あるものではないか。27 あなたがたのうちだれが、思い悩んだからといって、寿命をわずかでも延ばすことができようか。28 なぜ、衣服のことで思い悩むのか。野の花がどのように育つのか、注意して見なさい。働きもせず、紡ぎもしない。29 しかし、言うておく。栄華を極めたソロモンでさえ、この花の一つほどにも着飾ってはいなかった。30 今日は生えていて、明日は炉に投げ込まれる野の草でさえ、神はこのように装ってくださる。まして、あなたがたにはなおさらのことではないか、信仰の薄い者たちよ。」

26節でイエスはこう言いました。「空の鳥を見なさい」イエスは弟子たちに、神さまが、神さまが造られたものをどのように養っておられるかを見せました。覚えておいてください。この弟子たちは、28章の最後で、世界に遣わされていく人たちです。彼らは、自分のものを全て捨てて、イエスについて行った、世界で最初の弟子たちです。(4章)そして、彼らは必要な物は全て神さまに頼っていました。全てが壊れた周りを見て不安になったり、落ち込むのは簡単ですよ？上を見上げることを忘れて、神さまが素晴らしくデザインされた、美しいものを見過ごすしてしまうことは簡単です。

では、あなたは毎日どこを見ていますか？イエスは、上を見上げなさい。空の鳥を見なさい。どれほどのびのびとしていることか。鳥たちは「種も蒔かず、刈り入れもせず、倉に納めもしない。」と言っています。鳥は食べ物を探しますが、神さまが鳥たちの究極的な「与えてくれる人」です。イエスは、人生のトラブルを乗り越えて羽を羽ばたかせて空へ舞い上がっていく鳥を見なさい、と言われます。鳥は、人間がするように、種を蒔いたり、刈り入れをしたり、心配して憔悴したりしません。それでも「天の父は彼らを養ってくださる」のです。イエスは、「鳥たちを見なさい。そして、私たちの天の父なる神さまがどれほど私たちを気にかけてくださっているかを知りなさい。」と言われます。神さまの経済は、私たちの経済に影響されることはないのです。神さまは、全てを支配しておられる、「備えてくださる方」なのです。

イエスは、「もし神さまが彼の創造物を気にかけておられるなら、「あなたは鳥よりも価値あるのではないか。」と言われます。お金は、私たちの社会の中で価値あるシステムを表しますよね。お金は、私たちの地位、力、安全を表します。しかし、もしお金であなたの価値観と安全が決まるなら、それは、あなたをもっと不安

と失望へ導きます。将来のために貯金するのはいいでしょう、しかし、お金はあなたを救うことはできません。少し前の19節でイエスは、「あなたがたは地上に富を積んではならない。そこでは、虫が食ったり、さび付いたりする。」と言われました。「虫やさびがあなたの宝物を壊すのです。宝物、とはあなたが安全だと思ふ価値観を置いているものです。今の、このコロナウィルスの時に、悲しいことに、私たちは、世界の中で、成功、世の中が生み出した偽の神、お金、教育、娯楽、経済的権力、などの偶像が揺るがされ、崩壊していくのを見ているのです。

もし、あなたがお金、キャリア、健康などを神さまよりも愛し、大切にしているなら、ただ不安が増えるだけではありません。最終的にあなたを壊します。しかし、ここでイエスは、「神さまが、あなたにどれくらいの価値を置いているか知ってる？」と言われます。あなたはどれほど神さまにとって大切に価値ある者か知っていますか？ これは、創世記1：27で「神は御自分にかたどって人を創造された。」という言葉にさかのぼります。つまり、あなたは、自分の所有物、達成したこと、作ったものからではなく、神さまから価値を得るのです。あなたは、空の鳥より価値がないと思いませんか？あなたは神さまに似せられて造られていないと思いませんか？イエスは、27節で、私たちがコントロールしている幻想を崩しました。イエスは、「あなた方の誰が、思い悩んだところで、寿命をわずかでも伸ばせますか？」と言われました。（英語では、わずかでも、を Single hour（1時間）と表現しています。）ここでの「hour(1時間)」という言葉は、「キュビット（腕尺、大体45-56cm）」という時間の長さを例えた言葉に訳されます。つまり、イエスが言っているのは、あなた方の誰が、心配したからといって、自分の寿命を1時間伸ばすことができるのか？ということです。いいですか、私たちの心配の奥底には、物事をコントロールしたいという偶像があります。神さまには備えることができるということを信じずに、自分の幸せな将来のため、安全を求めるのです。しかし、イエスは言います。あなたは、自分の寿命を1時間伸ばすことさえできない。時間でさえも神さまの全てを支配されている御手の中にあるのです。ですから、28節で「なぜあなたは着るものに悩むのですか？」こう言われます。着るものについてまた言及されました。

さて、創世記3：21でアダムとエバが、どのように彼らに服が必要だと気づいたか覚えていますか？私たちは皆、心の奥底にある深い恥や不安を隠したいと願っているのです。私たちが隠したいと思う全ての不安は、罪からきたものです。だから、イエスは「野の花がどのように育つのか、注意して見なさい。働きもせず、紡ぎもしない。しかし、栄華を極めたソロモンでさえ、この花の一つほどにも着飾ってはいなかった。」と言われます。息も止まるようなことです。第一列王記10：4、5では、シェバの女王がソロモン王の衣服と富を見たとき、「息もとまるような思いであった」とあります。ソロモン王の衣服と富を見るのは息も止まるような

ほど素晴らしかったのです。しかし、イエスさまがここで言っているのは、ソロモン王の衣服でさえ、神さまが造られた野の花の美しさとは比べられないものだったのです。あなたが、神の創造物を見て、神さまがどのように動物たちを養い、美しい花を咲かせているかを見たとき、息が止まるほどの思いをしたいと思います。だからイエスは30節で、「野の草でさえ、このように装ってくださる。。。あなたがたにはそれ以上を装ってくださらないと思うのか？信仰の薄い者たち。」と言われているのです。あなたが弱く、信仰が薄くて、心配しているとしても、神さまがあなたを装ってくれるのです。ソロモン王の衣服は素晴らしかったけれども、野の花はそれ以上に素晴らしいのです。しかし12章42節で、イエスは「見よ。ここに、ソロモンより勝る者がある。」と言いました。ソロモン王よりも素晴らしい方が来られたのです。では最後のポイントです。

---

### 3.究極的な安全を与えてくれる王

#### 31-34節

「31 だから、『何を食べようか』『何を飲もうか』『何を着ようか』と言って、思い悩むな。32 それはみな、異邦人が切に求めているものだ。あなたがたの天の父は、これらのものがみなあなたがたに必要なことをご存じである。33 何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加えて与えられる。34 だから、明日のことまで思い悩むな。明日のことは明日自らが思い悩む。その日の苦勞は、その日だけで十分である。」

31節でイエスが言ったことに気づきましたか？「『何を食べようか』『何を飲もうか』『何を着ようか』と言って、思い悩むな。」何でこう言ったのでしょうか？なぜなら、32節にあるように、「異邦人（ユダヤ人以外という意味＝外国人＝クリスチャンではない人）や国家が切に求めているもの」だからです。あなたには、あなたに必要なことは**全て知っている**天の父がおられます。別の言い方をすると、鳥や野の花を養ってくださる神は、神の国をあなたに与えています。異邦人たちが求めて立て上げた「小さな王国」は、ずっと続くことはありません。神の国だけが永遠に続くのです。だから33節でイエスはこう言いました。「何よりもまず、**神の国**を求めなさい。」なぜなら、ソロモンより素晴らしい方がここにいるからです。

イエスは、私たちの罪、裸、不安、弱さ、恥に服を着せるために来てくださった王です。だから、「何よりもまず、神の国を求めなさい」と言っているのです。神の国、真実の王であるイエスの国です。そして、もう1つ、「まず神の義も求めなさい」とも言われます。いいですか、どんなにかっこいい、美しい服を外側に着ても、心の中にある罪悪感は隠せないのです。外側の服は、罪によって起こる、内側の裸を覆うことはできないのです。衣服は、私たちの霊的な裸を覆うことはできないのです。私たちが殺そうとする罪や病気からは守れないのです。しかし、イエスは私たちが覆ってくださる、全てを支配しておられる王です。大分後の27章にこうあります。

「35 彼らはイエスを十字架につけると、くじを引いてその服を分け合い、36そこに座って見張りをしていた。37イエスの頭の上には、『これはユダヤ人の王イエスである』と書いた罪状書きを掲げた。」

十字架の上で、この偉大な王イエスは、ご自身の衣服を剥ぎ取られ、私たちの罪のために恥を受けられました。私たちが、イエスの衣服を着ることができるよう、王としての衣服を剥ぎ取られたのです。私たちが衣服をまとうことができるように、彼は裸になったのです。私たちが彼の義で覆われるために、裸になって恥を受けられたのです。ルカ15:22では、放蕩息子の話があります。家出をしていた放蕩息子が家に戻った時、父は「一番良い服を持って来て、彼に着せなさい。そして彼の指に指輪をはめ、足に靴を履かせなさい」と言いました。いいですか、あなたがイエスのもとへ行く時、イエスはあなたに最高の服を着せてくれるのです。イエスはあなたのために永遠に続く宝物を買ってくれたのです。偉大な王は、私たちが豊かになるために貧しくなったのです。イエスは、神さまの真実で素晴らしい備えであり、私たちの究極的な安全なのです。

もう一度聖書箇所を見てみましょう。イエスは「もし私たちが、自分で作った”ミニ王国”を求め、自分が王で、そのミニ王国を支配するとしたら、最終的にその王国はあなたが不安を抱える根源になるでしょう。」と言われます。だから、まず神の国と神の義を第一に求めなさい、という理由は、本当の王様が来られたからです！あなたがイエスを求めていなくても、求める力がなかった時でさえも、イエスはあなたを求めて来られたのです。もしあなたが初めてキリスト教について聞いたなら、今日、ぜひイエスのもとへ行きましょう。

もし、33節の「加えて与えられるもの」があなたの究極的な安全になっているなら、私たちには背負いきれないほどの重荷となります。しかし、イエスは、私たちを崩壊させる罪や偶像を背負いに来てくれた、真実の王です。

イエスは言います。「あなたの自己中心的な興味より、まず神の国を求めなさい」あなたに、自分の全てを与えるために来てくれた、真実の王を賛美し、仕えましょう。そうすれば、「必要なものは全て加えて与えられる」のです。そして、34節、「だから、明日のことまで思い悩まなくていい。明日のことは明日自らが思い悩むから。その日の苦労は、その日だけで十分です。」とあります。もし神さまがあなたに彼のひとり子を備えてくださり、永遠の安全を与えてくれているなら、あなたは明日のことを心配する必要がありません。明日のことは、明日が考えるからです。明日の心配は、あなたの今日の平安を奪います。キリストは、今日のあなたに十分であり、明日のあなたにも十分なのです。いいですか、明日のためにお金を貯めることもできます。しかし、そのお金は明日の問題から救ってはくれないのです。ただ、イエスがあなたの王で、主人なら、今日と明日に必要な平安を与えてくれるのです。イエスは、明日の問題への力の源です。もし、世界で一番豊かな王が、全てを手放し、あなたのために十字架にかかってくださったなら、その方が、あなたに衣服を着せ、食べ物を与えないわけがありませんよね？もし神さまが神のひとり子の義を持って、最高の衣服を着せてくれたなら、神さまがあなたの必要を備えないなんて、ありえますか？もし神さまが、あなたに永遠の備えを与えてくださったなら、今の一時的な時に必要なものを恵み深く与えてくれないなんて、考えられますか？

だから、昨日の後悔や、明日の心配が、今日の平安を奪わないようにしてください。将来のために貯金し、備えていくことは正しいです。しかし、あなたがそうする時には、神の国の基準で計画してください。神の国に並ぶ時まで、あなたの夢は小さいものです。神の国は終わりのないもので、いつの日か完全な状態でやって来ます。

だから、神の国を最優先にしましょう、そして、イエスさまの主権の下で、私たちの時間、持っているもの、エネルギーを差し出しましょう。「その日の苦労は、その日だけで十分」です。明日の問題は、神さまの恵みに溢れた備えが、あなたのために十分用意されています。イエスさまは、今日のあなたに十分です。そして、明日のあなたにも十分なのです！